

I 基本理念

策定の趣旨

水道は、市民の生活と経済活動に欠かすことのできない重要なライフラインです。本市では、市民に安心して水道を使用していただけるように、水道施設の整備や維持管理に努めています。

市の水道普及率（給水人口／行政区域内人口の割合）は令和 2 年度末で 93.1%で、多くの市民に安全な水道をご使用いただいております。このような状況のなか、本市の水道事業は拡張整備の時代から維持管理の時代に移行し、将来にわたり安全かつ持続的に水道水を供給することが求められています。

一方、近年は全国的な人口減少や大規模な災害に対する危機管理対策の必要性など社会情勢が変化しています。水道事業についても、高度経済成長期（昭和 40～50 年代）に建設した水道施設が一斉に更新時期を迎えることに加え、人口とともに水需要の減少も見込まれ、給水収益についても拡張整備時代のような増加は見込まれない状況にあります。

このような社会情勢や水道事業を取り巻く環境の変化に対応し、持続可能な水道を将来にわたり維持するために、厚生労働省では平成 25 年 3 月に「新水道ビジョン」を策定しました。この「新水道ビジョン」では、50～100 年後の将来を見据えた水道の理想像が明示され、「安全」、「強靱」、「持続」の 3 つの観点から、今後、水道事業者が取り組むべき項目や方策が提示されました。

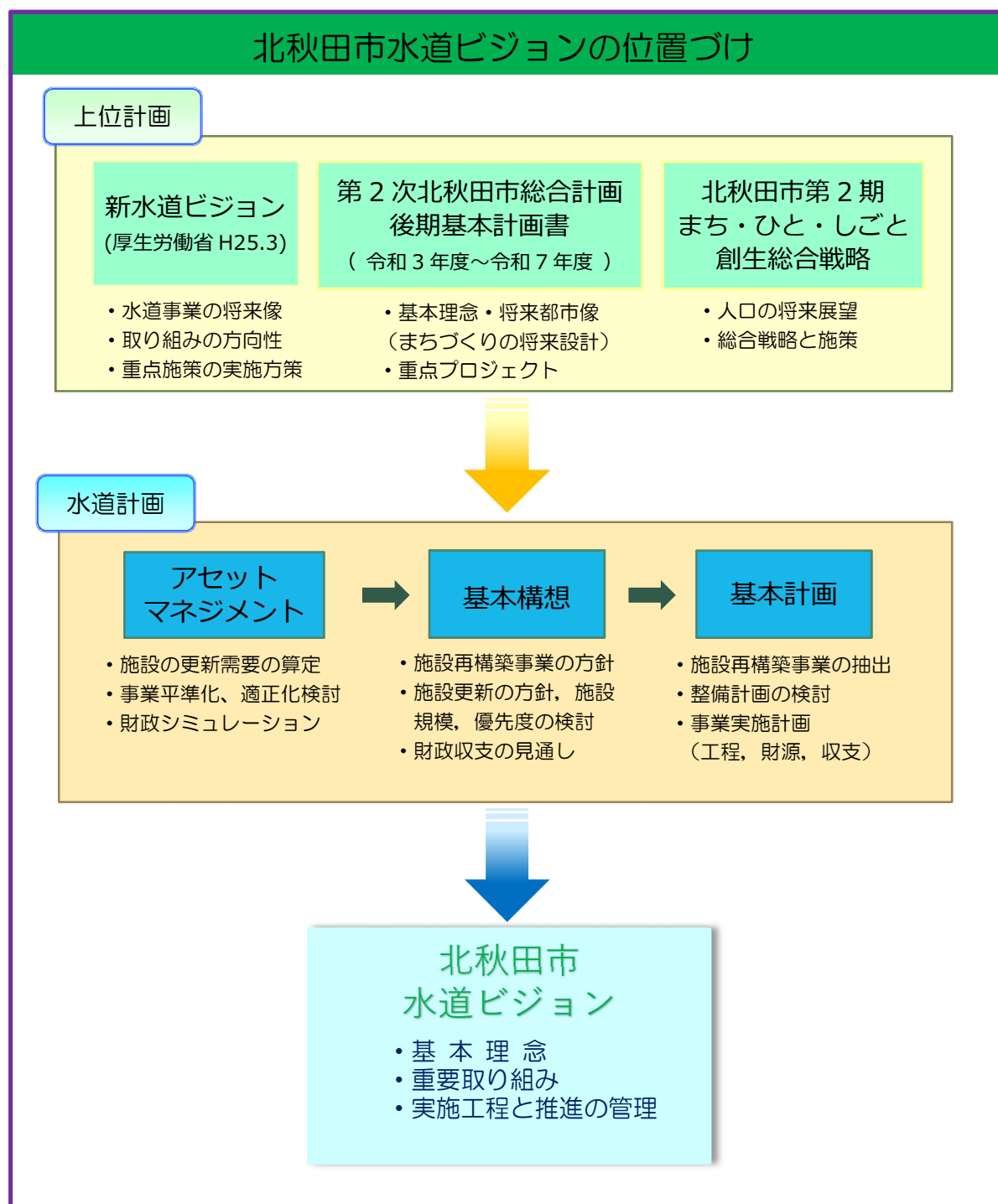
本市では令和 3 年 3 月に「第 2 次北秋田市総合計画 後期基本計画」を策定し、まちづくりの基本理念と将来都市像（住民が主役の“もり”のまち）を掲げ、前期基本計画の各種施策の取組をさらに深化させていくとともに、新たな観点や視点を取り入れ、実現のための方針を示しております。また、国が掲げる「将来にわたって活力ある地域社会の実現」に向け、令和 3 年 3 月に「北秋田市人口ビジョン第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。ここでは、人口減少の克服と地方創生に向けた取り組みを、【まち】・【ひと】・【しごと】の観点で 4 つの施策が掲げられ、「第 2 次北秋田市総合計画 後期基本計画」の重点プロジェクトとして位置づけられています。

水道は、市民の生活やまちづくりの基盤となるもので、新水道ビジョンに明示された水道の理想像やまちづくりの基本理念実現のため、将来にわたって持続可能な水道を維持していかなければなりません。

このため「北秋田市水道ビジョン」を策定し、水道事業の今後 10 年間に取り組むべき具体的な施策を示すものです。

位置づけ

北秋田市水道ビジョンは、「アセットマネジメント（資産管理）（R2）」、「基本構想（R3）」、「基本計画 R4（2022年）～13年（2031年）」を総括し取りまとめたもので、厚生労働省が「新水道ビジョン」を推進するにあたり、各水道事業体に策定を求めている本市の「水道事業ビジョン」に位置付けます。

















基本理念と主な取組み

本市では、新水道ビジョンを踏まえ、水道事業者として 50 年後、100 年後においても市民のみなさまへ、安全で安心な水道水を安定して供給し続けることを目標とし、基本理念（理想像）を次のとおり掲げて取組みます。

基 本 理 念

『地域をうるおし、信頼を未来へ』

主 な 取 り 組 み

強 靱	基幹施設の強靱化	
	① 鷹巣配水場更新整備 ② 鷹巣上水道基幹管路更新整備	     
安 全	安定給水の確保	
	① 阿仁地区監視設備整備 ② 緑ヶ丘地区緊急連絡管整備	    
危 機 管 理	危機管理体制の強化	
	① 水道職員の人材育成 ② 災害時応援協定の締結推進	  
経 営	経営基盤の強化と広域連携の推進	
	① 適正な水道料金体系の検討 ② 広域連携の推進によるサービスの向上	